

第13回 阪神つながり交流祭 2022

創～これからの歩みと明るい未来～



関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス G号館201教室

阪神地域ビジョンフォーラム 2022



関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス G号館202教室

実施報告書

令和5年3月

つながり交流祭学生実行委員会



目次

第13回阪神つながり交流祭2022の報告

- P.3 事業概要
- P.4 プログラム
- P.5 会場設営図
- P.6 プログラム詳細
- P.1 3 学生実行委員の振り返り
- P.1 4 アンケート結果

ビジョンフォーラム2022の報告

- P.1 9 事業概要
- P.2 0 プログラム
- P.2 1 会場設営図
- P.2 2 学生実行委員の振り返り



事業概要

1. 事業名

第13回 阪神つながり交流祭2022 創～これからの歩みと明るい未来～

2. 日時

2022年12月18日（日）13：00～15：00

3. 場所

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス G号館2階201教室

4. 参加者数

165名

内訳：発表団体（学生・教員・職員・連携団体）134、一般参加者10、県会議員2、関係者24※¹

※1：兵庫県等10、関西学院大学4、つながり交流祭学生実行委員会6、NPO法人コミュニティ事業支援ネット4

5. 目的

阪神地域の大学・短期大学の大学生で構成されるつながり交流祭学生実行委員会が企画・運営の主体となり、地域団体や事業者、商店街等と連携して実施する地域活性化活動の促進をめざしています。大学生による地域活性化活動の報告や企業による地域と連携した事例報告などを行います。

6. 主な内容

- ・開会式（13：00～）
- ・大学生による地域活性化活動の発表（13：15～）
- ・閉会式（14：55～）

主 催 つながり交流祭学生実行委員会

共 催 兵庫県阪神南県民センター

企画・運営 NPO法人コミュニティ事業支援ネット

つながり交流祭学生実行委員会（阪神まち大学「イベントプロデュースコース」）

「阪神つながり交流祭」を企画運営するため、阪神地域の複数の大学の学生から構成される組織です。阪神地域の大学生による地域活性化活動の魅力を広めるイベントの開催を目的に活動しています。大学・大学生と地域が関わることの成果や課題を考え、これからの在り方を探り、阪神地域の活性化を図る企画を行っています。

阪神まち大学

阪神まち大学は、社会課題・地域課題に対して、自ら答えを導き出す力を身に付けた「社会で活躍する人財」を育成することを目的とした、NPO法人コミュニティ事業支援ネットが実施する事業です。

プログラム



13:00 開会

あいさつ

兵庫県阪神南県民センター長

関西学院大学 研究推進連携機構 社会連携センター長

つながり交流祭学生実行委員会

13:15 大学生による地域活性化活動の発表

13:15 阪神まち大学大学 まちづくりプロジェクトコース
子どもたち参画の地域コミュニティの形成

13:24 園田学園女子大学 松葉真研究室
Eatsプロジェクト

13:33 武庫川女子大学 空間デザイン論研究室
近代と交差する土地の記憶

13:42 関西学院大学 経済学部 栗田研究会
甘尼！尼崎の魅力を届けよう！

13:51 園田学園女子大学 経営学部 大江研究室つなGirl
尼崎プロジェクト

14:00 大手前大学 海老良平ゼミ
フリーペーパー「#大手前大学の学生が推す！夙川コーヒー入門書」の作成と配布

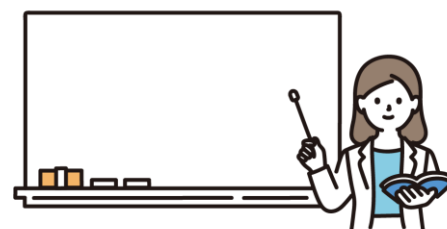
14:09 武庫川女子大学 生活環境学科 伊丹研究室
杭瀬ワンデypassプロジェクト

14:18 関西学院大学 KGコネクターズ
西宮ドーナツ「繋がリング」(仮) 開発への道のり

14:27 園田学園女子大学 足立邦子研究室
尼崎市の女性を中心としたまちづくりプロジェクト

14:36 甲南大学 ひょうご西宮フィールドワーク
ひょうご西宮フィールドワークの活動発表

14:45 阪神まち大学 ICTプロジェクトコース
動画制作による高齢者施設の情報発信企画



14:55 あいさつ

兵庫県阪神南県民センター 副センター長

つながり交流祭学生実行委員会

15:00 閉会

会場設営図（座席表）

前																		
1			2			3			4			5			6			
発表 待 機 席 イ ス （ 8 ）													◎ ◎					
	◎ ◎ まち大 まちづくり 6(5+1)			関学 栗田研究会 7(7+0)						大手前 海老ゼミ②						関係者(関学)		
	◎ ◎ 園田 松葉研究室 5(4+1)			◎ ◎			大手前 海老ゼミ① 28(25+3)									関係者(兵庫県)		
	◎ ◎															◎ ◎		
	武庫女 空間デザイン 論研究室 11(11+0)			園田 大江研究室 15(14+1)			◎ ◎			関学 KGコネクターズ 3(3+0)			園田 足立研究室 33(30+3)					
				◎ ◎			一般参加者			一般参加者						甲南 ひょうご西宮 FW 21(20+1)		
	◎ ◎ まち大 ICT 6(5+1)			◎ ◎ 武庫女 伊丹研究室 5(3+2)														
◎：質問者						後						※数字は参加数（学生+教員・職員・連携団体）						

プログラム詳細

開会

あいさつ

兵庫県阪神南県民センター長

(写真2)

関西学院大学 研究推進連携機構 社会連携センター長

(写真3)

つながり交流祭 学生実行委員会

(写真4)



写真1 司会の様子



写真2



写真3



写真4

1. 阪神まち大学 まちづくりプロジェクトコース

テーマ	子どもたち参画の地域コミュニティの形成
連携団体	西宮市子ども会協議会
内容	西宮市子ども会の方や地域の方々との交流を通して、地域全体で町を盛り上げようとする西宮市の活気を感じることができた。地域の人が地元を盛り上げようとしているなかで、学生のアイデアを取り入れることによって、斬新で面白いアイデアが生まれていくところを目の当たりにし、貴重な体験をすることができた。学生側から見ても、企画力やビジネスマナーなどが身に付き、社会というものを実践的に学ぶことができる非常に良い機会となった。
活動の中で特にアピールしたいこと	イベントの企画から実際に実施するまでのところを、自分たちだけで一貫して行った。幾度にも渡りミーティングで話し合い、企画を練り上げ、実施まで持っていくことができた。一生懸命練り上げた企画の内容は、オリジナリティあふれるものとなった。



2. 園田学園女子大学 松葉真研究室

テーマ	Eatsプロジェクト
担当教員	園田学園女子大学 人間健康学部 教授 松葉 真
連携団体	株式会社地域環境計画研究所／尼崎商工会議所
内容	昨年に引き続き、尼崎市の地産食材である尼いもに含まれる澱粉成分の性質の違い（質と量）について、酵素法を用いて分析を試みた結果、加熱では甘くならないことがあらためて確認ができた。更に、澱粉含量が少なく、加熱で甘くならないという尼いもの特徴を考慮した調理例の検討も行った。尼いもを用いて、おやつとしては、芋餅、素揚げ芋ケンピ、素揚げチップスなどを、おかずとしては、きんぴら尼いもの甘酢あんかけの試作を試みアンケート調査を実施した。里芋の成分分析並びにおやつレシピ作成も行った。
活動の中で特にアピールしたいこと	本プロジェクトは本学の食物栄養学科の機能をフル活用して多ゼミ間を横断して（食品成分分析から調理提案まで）尼崎市の地産食材の機能性の分析に加え、食材の成分から適した、調理法についてもライフステージに対応した食べ方の提案を行うことができた。学生が専門的に学んできたことを地域社会に向けて提案することにより、尼崎市の魅力を高める一助にすることを目指している。



3. 武庫川女子大学 空間デザイン論研究室

テーマ	近代と交差する土地の記憶
担当教員	武庫川女子大学 短期大学部 教授 黒田 智子
連携団体	兵庫県建築士会
内容	枝川を廃川してできた甲子園開発地の中央を走る甲子園筋は、開発地を特徴づけるために阪神電鉄が開業した甲子園球場（1924）と甲子園ホテル（1930、現・甲子園会館）を結んでいる。特に旧枝川と武庫川の分岐点に位置する甲子園ホテルは、設計者・遠藤新により、地域景観の記憶、灌漑・生活用水への感謝と夢を建築空間に表現している。また、武庫川・枝川水域は、灘五郷の宮水保存に配慮が必要な地域の東端にあたる。特に宮水の発見者山邑太左衛門の邸宅（1924）は、やはり遠藤新によって完成した。水に係る地域の歴史を刻む建築・石碑、伏流水の形跡などをプロットした地図を作成し、地域の水に対して関心を喚起する。
活動の中で特にアピールしたいこと	甲子園筋には、当時の水争いを証す鳴尾義民碑や北郷樋跡がある。早魃時に水のために命を落とした人々の歴史を、暴れ川だった武庫川の水害とともに若い人達に伝えたい。また、灘五郷の宮水と、武庫川・旧枝川水系の関係はあまり知られていないが、伏流水は、現在も西宮市の水道水の一部として汲み上げられている。地域の水についての過去と現在を未来に伝える。



4. 関西学院大学 経済学部 栗田研究会

テーマ	甘尼！尼崎の魅力を届けよう！
担当教員	関西学院大学 経済学部 教授 栗田 匡相
連携団体	一般社団法人あまがさき観光局
内容	本研究会の活動の一つに「甘尼」というものがある。「尼崎のイメージを甘ーく」という理念を基に、尼崎地域であらゆる活動を展開してきた。第一に雑誌発刊が挙げられる。毎年、春号と秋号の2刊を発刊しており、毎回テーマを変えて尼崎の魅力あるお店や商品を発信している。アポ取り、取材、編集、デザインまですべて学生が行う。実際に店主の方にお会いして話を聞くことで、尼崎に対する温かい想いに触れ、私たち自身も尼崎の魅力に気づく機会となっておりやりがいを感じられる。また他にもあまがさき観光局とコラボして商品開発を行ったり、毎年3月には阪神尼崎駅前の中央公園で先ほどの雑誌で取り上げたお店の商品などを詰め合わせして販売するといったイベントも行ったりしている。
活動の中で特にアピールしたいこと	特にアピールしたい点は尼崎の人々の人の良さである。私たちの想いを実現するため取材などあらゆるところで協力していただき、阪神尼崎駅前でイベント中、差し入れを持ってきてくださる住民の方など私たちの活動の裏にはたくさんの人々の応援が詰まっているというところである。



5. 園田学園女子大学 経営学部 大江研究室つなGirl

テーマ	尼崎プロジェクト
担当教員	園田学園女子大学 経営学部 教授 大江 篤
連携団体	塚口商店街振興組合
内容	本プロジェクトは、阪急塚口駅北側にある塚口商店街との連携プロジェクトである。塚口商店街の要望により、本学学生を対象に購買行動及び阪急塚口駅周辺に対するイメージに関するアンケート調査を実施した。学生の居住地と買い物や飲食をする場所との一致率、買い物や飲食をする平均的な1か月あたりの頻度、駅周辺に対するイメージ等の分析結果を報告する。さらに、塚口商店街の認知度、利用頻度等の回答を紹介する。以上の結果をもとに、塚口商店街様及び阪急塚口駅周辺の活性化につながるような提案を行う。
活動の中で特にアピールしたいこと	本学は阪急塚口駅の南側に立地し、駅の北側に立地する塚口商店街の認知度や利用頻度は高くないだろうと思われていた。この度の調査でそれを具体的な数値で示し、そのデータをもとに、まちの活性化について提案を行う。



6. 大手前大学 海老良平ゼミ

テーマ	フリーペーパー「#大手前大学の学生が推す！夙川コーヒー入門書」の作成と配布
担当教員	大手前大学 現代社会学部 准教授 海老 良平
連携団体	にしのみやコーヒーの扉プロジェクト
内容	本プロジェクトは2021年度から開始したものであり、今年は大手前大学さくら夙川キャンパスのある夙川地区の珈琲店とスイーツ店、ベーカリーを調査した。調査内容は店舗の概要と阪急夙川駅近くの2店舗のスペシャルティコーヒーを扱う珈琲店の方へのインタビューであった。これらの調査内容をタブロイド版のフリーペーパーとして制作し、11月26、27日に西宮阪急百貨店で開催された珈琲イベントにゼミ生全員で500部配布した。また昨年デザインした珈琲ドリップバッグを入れる缶を制作し、イベントで販売を試みた。今回の発表は調査の過程とイベントでの成果を報告するものである。
活動の中で特にアピールしたいこと	活動の中で特にアピールしたいポイントは店舗への調査とインタビューの成果をフリーペーパーという形に残し、制作にとどまらずそれを市民向けに配布したところにある。記事は全て学生自身で作成からチェックまでを行い、また表紙や店舗、商品の写真も撮影した。制作段階全てに学生が関わったことは貴重な経験となった。



7. 武庫川女子大学 生活環境学科 伊丹研究室

テーマ	杭瀬ワンデイバスプロジェクト
担当教員	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 伊丹 康二
連携団体	つまみぐいラリー運営事務局
内容	杭瀬商店街には、多様な業種のお店や個性的な店主、複数のコミュニティの場があり、飲食や商業機能に依存しない新たな商店街の楽しみ方があると考えた。これらの魅力を活かし、体験的に商店街を楽しめる企画の提案実践を行った。企画内容は、各店が用意する1品をつまみながら街を巡る「つまみ食いラリー」という既存のイベントに、ものづくりや足湯などの体験できる店舗を加え、体験的に商店街を楽しむことを目的とした。また、店主や商店街内のコミュニティにも着目し、関係人口が増加につながる取組みについて検討した。
活動の中で特にアピールしたいこと	既存の「食」が中心であるイベントに、新たな「体験」という要素を組み合わせたこと。当初は外部者である学生がこの新たな取組みを行うにあたり、企画から実践までどのように商店街と関わったのかについてアピールしたい。



8. 関西学院大学 KGコネクターズ

テーマ	西宮ドーナツ「繋がりリング」(仮) 開発への道のり
担当教員	関西学院大学 商学部 准教授 森谷 周一
連携団体	株式会社ベルン
内容	西宮市内にある洋菓子店と新商品の開発を行っている。2021年の秋から活動が始まり、そのきっかけとなった私たちの「ある思い」は、今や地元洋菓子店の社長、大学教員、地元の農家へと、思いの共感・繋がり輪が広がっている。共同開発として発売する商品にも込めたその思いや、地域の人・企業の人と学生主体で進める活動だからこその気づき。そして、来年販売に向けて、美味しさだけでなく、この活動のきっかけとなった「人との繋がり」や「縁」を感じられるスイーツ作りを目指す新商品の提案の途中経過を発表する。
活動の中で特にアピールしたいこと	ひとりの学生が提案した商品開発企画が地元の洋菓子店・農家・大学といった多くの人と縁を繋ぎ、巻き込み、当初描いていた「小さな想いが大きな形へ」と活動の規模が現在も膨らみ続けている。自分たちのやりたいことへの足りない力を、自分たちで外部からの協力を依頼する常により主体的に動ける環境だからこそ、活動を通じての多くの学びがある。



9. 園田女子大学 足立邦子研究室

テーマ	尼崎市の女性を中心としたまちづくりプロジェクト
担当教員	園田学園女子大学 経営学部 准教授 足立 邦子
連携団体	阪神電気鉄道株式会社／株式会社フジ・データ・システム／株式会社みつば電気／株式会社ふたごじてんしゃ／尼崎市役所
内容	コロナ禍という不確実な状況下において、住み続けられるまちづくり、及び女性の社会進出を支援することは近々の課題である。本プロジェクトでは、阪神電鉄様が運営される女性応援WEBサイト「Cheer*full Café（チアフル カフェ）」を、より魅力的なものにする提案をするチーム、尼崎市中央区及び小田地区の観光スポットや名跡の魅力の再発見とそのアピール方法を提案するチーム、尼崎市内の女性企業家の声を聴き取り、ワークライフバランス、キャリア形成について分析し、「働く女性のロールモデル」を検討するチームの、3チームに分かれ、尼崎市のまちづくり、QOLの向上、及び女性の活躍推進について課題を発見し、問題解決をはかる活動を行った。
活動の中で特にアピールしたいこと	本プロジェクトは本学における学問領域の異なる複数の学部・学部に在籍する学生が調査・研究を共同で行った。それによって、多様な知識と視点を活用してプロジェクトに取り組み、地域社会の一員として尼崎市の課題や魅力に関する理解を深める機会を提供することができた。



10. 甲南大学 ひょうご西宮フィールドワーク

テーマ	ひょうご西宮フィールドワークの活動発表
担当教員	甲南大学 マネジメント創造学部 非常勤講師 東 朋子
連携団体	白鷹株式会社／西宮中央商店街振興組合
内容	商店街イベント企画 私たちは、商店街が求める活性化や店舗同士のつながり強化に沿った提案として、ポスター展を開催した。具体的には、50店舗にアポイントを行い、そのうちの協力いただいた30店舗に対してポスターを作成し、そのポスターをイベントで発表し、発表以降、掲示板で飾る流れで行った。結果として、商店街同士のつながりができ、イベントも盛り上がり、多くの人を商店街に呼ぶこむことができた。 日本酒メーカーの課題解決企画 私たちは、日本酒メーカーの課題と解決方法を考案した。実際に酒米を製造している兵庫県三木市に行き、草刈り体験や稲刈りを通じて酒米づくりの大変さを身をもって体験した。また、白鷹酒造の社長や全農の方々にヒヤリングを行い、主題を「高齢化と後継者不足」とし、副題として「新規参入・新規就農の壁が高い」と仮定し、話し合いを進めてきた。そして、解決策として①技術の伝承②企業による農業経営の可能性③組織化（農業法人）全国規模の農機シェアリングに着目し、発表を行った。
活動の中で特にアピールしたいこと	店舗側のニーズをくみ取り、ポスターを学生で作成した。店舗側のイメージと、私たちのイメージが相違ないものを作り上げることに尽力した。 酒米づくりの工程を一部ではあるが、実際に体験し、大変さを学んだ。それを踏まえて案を考え、より具体的な解決策を導き出すことができた。



11. 阪神まち大学 ICTプロジェクトコース

テーマ	動画制作による高齢者施設の情報発信企画
連携団体	社会福祉法人きらくえん 喜楽苑
内容	私たち阪神まち大学ICTプロジェクトコースは、高齢者施設が抱える課題の一つである人手不足の解消の一助となれるよう、求職者の方に向けた施設のPR動画の制作に取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染症拡大による活動の制限を受けながら、9月上旬より活動をスタートし、これまで関係者の方々との打ち合わせ、資料のインプット、実際に施設を訪問するなどの活動を行ってきた。本日の発表ではここまでの活動の過程についてご紹介させていただく。 今後は翌年1月中の完成を目指して、連携団体の協力を得ながら、撮影・編集のフェーズに取り組んでいく予定である。
活動の中で特にアピールしたいこと	閉鎖的である等の介護施設のイメージを、地域との関わりが深い・日々イベントが開催される等のポジティブなものに変えるため、私たちが抱いていたような高齢者施設に対するイメージのネガティブな部分を、資料を読んで気づいたポジティブなものに変換するというミッションを掲げ、活動している。



学生実行委員会の振り返り

* つながり交流祭全体を通しての感想・反省

- ・ イベントの大枠を捉えるのが難しかった→イベントに対する共通認識を持つことが重要
- ・ 当日の限られたスケジュールの中で、オリジナリティを出すのが難しかった
- ・ 事前準備が想像以上に大変だった
- ・ いつまでに何をすべきか計画性立てて着実に進めていくことの重要性を学んだ
- ・ 広報の反省点として、広報活動を開始する時期が遅かった

→さらに多くの人も目に触れてもらい活動内容の理解や認知、興味をもってもらう為には少なくともイベント本番2か月前には広報活動を開始すべき



* 各役割の感想・反省

◎司会進行(MC)

- ・ まわしの役割の人と連携して、質疑応答の時間を臨機応変に調整したことで時間通りの進行に繋がった
- ・ 規定通りではなく、発表内容に合わせたコメントをすることで参加者に飽きさせない進行を努めた

◎マイクランナー

- ・ 1人で最大2団体の質問に回るのは時間の制限もあり、想像より大変だったが、まわし役とうまく連携できたことで、やり遂げることができたと思う。

◎誘導

- ・ みなさんが自分の発表順番をきちんと把握していたので、特に大きなハプニングもなく、安心して仕事をすることができた。

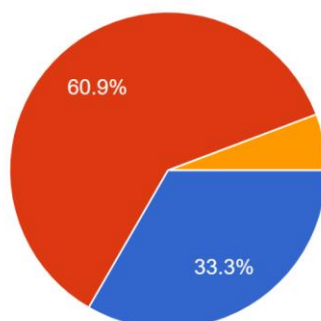
◎まわし

- ・ 事前に時間厳守を何度もお願いしていたため、定刻通り会を進めることが出来た。質疑応答を1～2問と変更の余地を残していたことも良かった。

アンケート結果

4. イベント全体の満足度を教えてください。

87 件の回答



● 非常に満足
● 満足
● あまり満足でない
● 全く満足でない



○イベント全体の満足度において非常に満足・満足を選んだ方の理由

- ・ 学生さんたちの向き合い方、連携団体の受け入れ方が感じられた
- ・ 色々な研究の成果を新たな発見と関心があった
- ・ ほかの大学の方がどのような課題を発見し、どんな成果を行ったのかを聞くことができた
- ・ 発表を機に自分たちの活動や目標を振り返る事ができた

○あまり満足できない・まったく満足できない理由

- ・ 他学生との交流、実際に意見交換したかったから
- ・ 11 団体連続での発表は長い為、一度休憩を設けてほしかった。



アンケート結果を踏まえての反省点と改善点

- ・ 質疑応答の時間が短く時間に限りがあったため、発表内容に関する深い質問がしづらい状況だったと考える

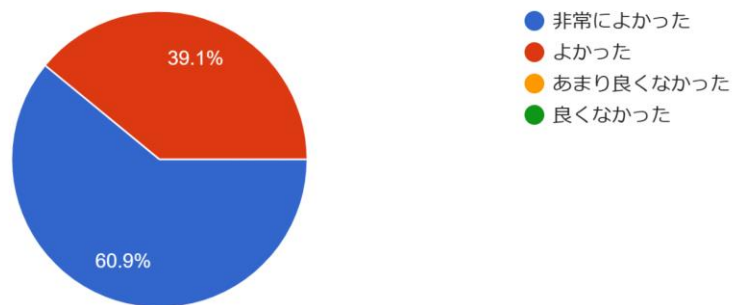
改善のために・・・

- ・ 発表時間や質疑応答の時間の長さの検討、新たに意見交換の時間を設けることなどの検討

⇒ 参加学生が主体性を持ってイベントを取り組めるような今後のスケジュール設定の必要性

7. イベントの進行の満足度（MC,誘導,裏方含む）を教えてください。

87 件の回答



○イベント進行の満足度において非常によかった・よかった、を選んだ理由

- ・スムーズで丁寧な進行だった
- ・時間通りでテキパキとしていてよかった

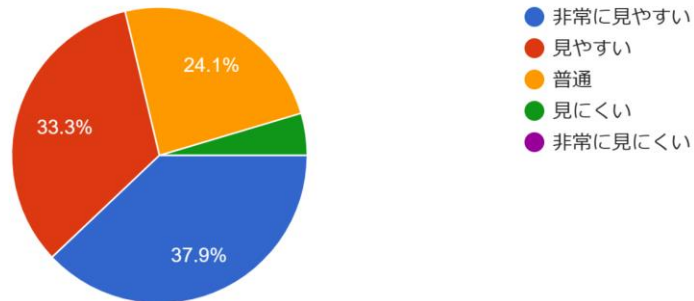
アンケートを結果踏まえての感想と反省

- ・リハーサル的重要性を感じた
- ・司会原稿をそのまま読むのではなく、臨機応変にコメントを変更したり、言葉に感情を持たせることで、より参加学生に飽きさせない会にすることができた。
- ・発表に対する質疑応答の時間をタイムキーパーとMCで連携して調整したことで、時間通りに進行を行うことができた

○座席からのスライドの見やすさ

10. 座席からのスライドの見やすさを教えてください。

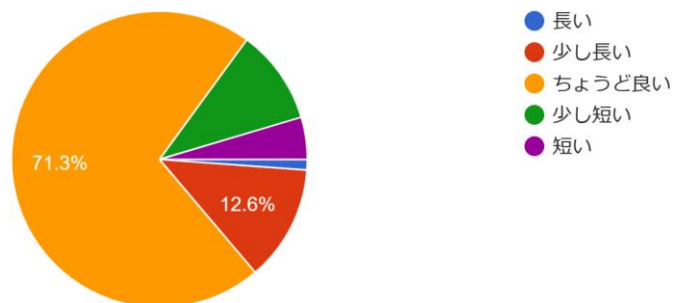
87 件の回答



○発表時間の長さ(発表 6 分 + 質疑応答 2 分)

11. 発表時間の長さについての感想をお聞かせください (発表 6 分 + 質疑応答 2 分)

87 件の回答



- ・ 70%以上の参加学生が妥当であると回答しているため、このままで良い

○全体を通しての感想

- ・ 様々な発表の仕方やパワーポイントの作り方から実際の活動を知ることができて非常に良い機会だった
- ・ 他団体の話を聞いて視野が広がり自分たちの発表がより良くなると思った
- ・ 様々なグループの発表を聞き、阪神西宮の活性化のための努力が伝わった

○広報の活動

・SNSでの広報

Instagram



Twitter



・チラシの作成

第13回 阪神つながり 交流祭

参加費
無料

創~これからの歩みと明るい未来~

【日時】2022年12月18日(日) 13:00-15:00

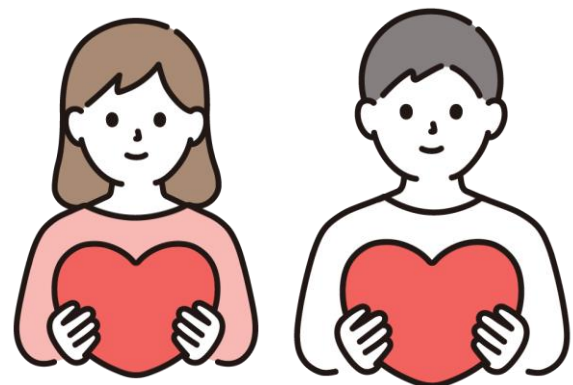
in 関西学院大学
西宮上ヶ原キャンパス G号館 201号室

阪神地域で、地域と共に活性化に取り組む大学生が活動を発表します。
これからの歩みと明るい未来を一緒に考えてみませんか？
約2時間のイベントですので、気軽にご参加ください。

参加予約はこちらから

Twitterより随時情報
を発信いたします。
←こちらの二次元コードからアクセス！

【主催】つながり交流祭学生実行委員会
【共催】兵庫県阪神南県民センター
【企画・運営・問い合わせ先】特定非営利活動法人コミュニティ事業支援ネット
〒662-0973 兵庫県西宮市田中町1番8号
TEL:0798-23-3738 fax 0798-23-3748 mail: staff@comisapo.com



阪神地域ビジョンフォーラム 2022



事業概要

1. 事業名

阪神地域ビジョンフォーラム2022

2. 日時

2022年12月18日（日） 15：30～17：00

3. 場所

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス G号館2階202教室

4. 参加者数

110名

内訳：発表団体（学生・教員・職員・阪神南北ビジョン推進チーム）75、県会議員6、関係者28※¹

※1：兵庫県等14、関西学院大学2、つながり交流祭学生実行委員会6、NPO法人コミュニティ事業支援ネット4、他3

5. 目的

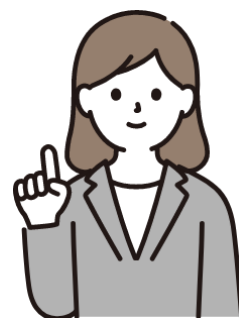
「2050 阪神地域の夢を語る」

私たちがチャレンジしたいこと、地域に必要とされること等を語り合うことで、2050年の阪神地域の理想とする未来像や夢の実現を目指す。

6. 主な内容

- ・来賓・出席者紹介（15：30～）
- ・意見交換（15：40～）
- ・総評・閉会式（16：55～）

主 催 つながり交流祭学生実行委員会
共 催 兵庫県阪神南県民センター・兵庫県阪神北県民局
企画・運営 NPO法人コミュニティ事業支援ネット



プログラム



15 : 30 来賓・出席者紹介

15 : 35 ビジョンフォーラム趣旨説明

兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授 赤澤 宏樹

15 : 40 意見交換 ※順不同

3つのテーマに沿って順に、赤澤教授の進行のもと、各団体代表者、県民センター長・局長などによる意見交換を行う。（各テーマ25分）

◆テーマ：魅力発信（15:40～）

関西学院大学 経済学部栗田研究会

阪神まち大学 まちづくりプロジェクトコース

園田学園女子大学 松葉真研究室

西宮まちなみ発見倶楽部（阪神南・ビジョン推進チーム）

◆テーマ：文化・交流（16:05～）

阪神まち大学 ICTプロジェクトコース

園田学園女子大学 経営学部大江研究室 つなGirl

大手前大学 海老良平ゼミ

NPO法人いながわリンク（阪神北・ビジョン推進チーム）

◆テーマ：まちづくり（16:30～）

武庫川女子大学 空間デザイン論研究室

関西学院大学 KGコネクターズ

小園小・中学校区子ども会【おぞの探検隊】（阪神南・ビジョン推進チーム）

16 : 55 総評

兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授 赤澤 宏樹

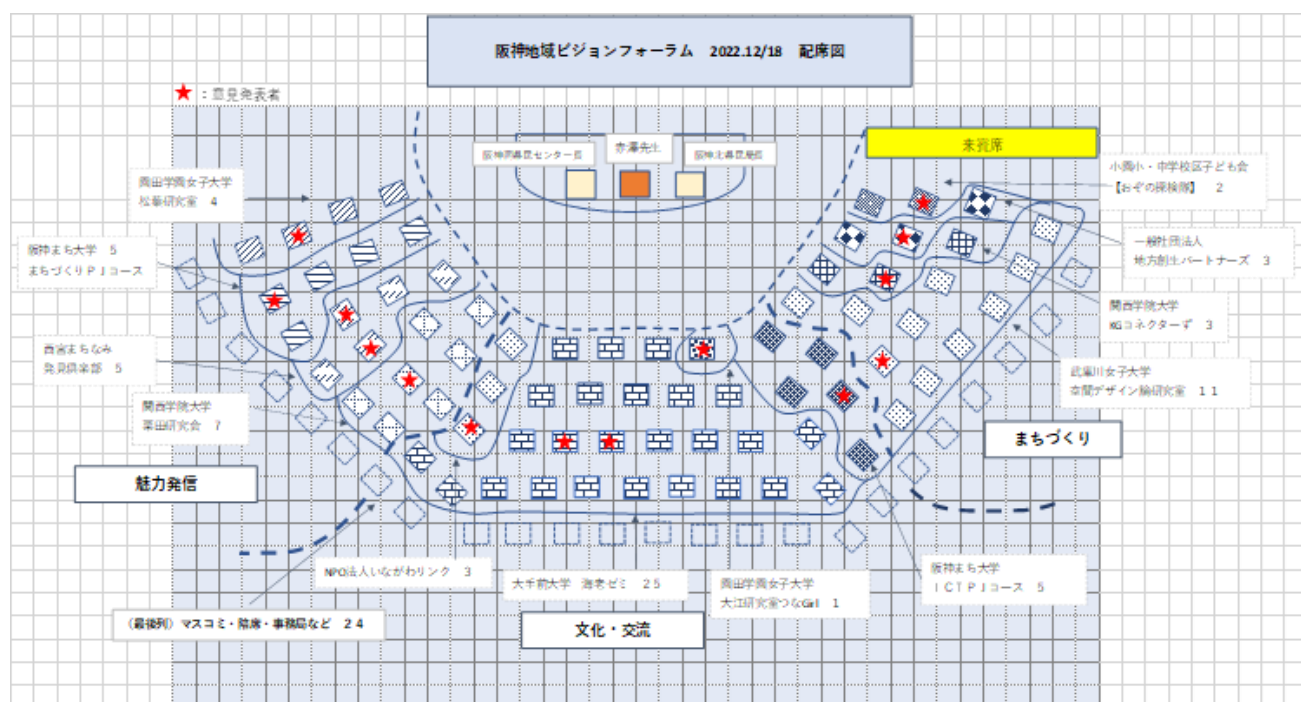
兵庫県阪神南県民センター長 秋山 徹志

兵庫県阪神北県民局長 和泉 秀樹

17 : 00 閉会式



会場設計図(座席表)



学生実行委員会の振り返り

当日の感想

- ・昨年度とは違い、対面開催ということもあって無事に開催できるか不安もあったが、当日は予定通りに進めることができ、安心した。
- ・アンケートでは参加者の方にイベントの進行や内容がよかったと回答してもらえたので、準備の成果を発揮できたと感じた。
- ・司会を担当したが、本番中においても変更点が多く、適切に進行を行えるか緊張したが、兵庫県職員の方々やコミュニティ事業支援ネットの方々のサポートがあり、滞りなく司会を進行することができた。
- ・ビジョンフォーラムはリハーサルをして本番をするという形ではないため、始まる直前までどういう形になるのかあまり想像ができずにいた。本番では学生、ビジョン推進チームの方と赤澤先生、阪神南県民センター長、阪神北県民局長の方々とどちらかが話しすぎるということはなく、いわゆる‘討論’をおこなっているのを見て、素晴らしい場所に立ち会っていると感動した。そして、皆様のご協力のもと、時間通りに終わることができて安心した。

実際にやってみてどうだったか

- ・ビジョンフォーラムの開催は今回が初めてということもあり、皆どういったものになるのかイメージができず、直前までそれが続いてしまったので、なるべく早い段階で考えや疑問を学生やコミュニティ事業支援ネットの方の間できちんと共有した方がより迅速に計画できると思った。
- ・学生、専門家、民間団体等の多くの方が参加していたが、わずかな人しか発言することができず、もっとフランクに意見交流できればより良いと感じたので、次回もビジョンフォーラムが開催されるならば、この点について可能ならば検討してほしい。
- ・ビジョンフォーラムは初めて行うイベントであり、前例がなくて大変だったため、県の方とNPO法人コミュニティ事業支援ネットの方々に多大なサポートをいただいた。定期的に運営のメンバーで顔を合わせ、少人数だからこそ一人ずつ意見を聞くことができた点良かった。変更も多々あったが、自分たちの個性を少し発揮できたと思う。

